

但馬特別研究集会の記録

木簡学会では、二〇〇二年七月に「古代但馬国と木簡」と題し兵庫県城崎郡日高町において特別研究集会を開催した。この特別研究集会は一九九四年の新潟特別研究集会、一九九八年の長野特別研究集会に続き、木簡が出土した現地で研究集会を開く試みの第三回目にあたる。今回の特別研究集会は、地域と木簡のケーススタディーとして、日高町の祢布ヶ森遺跡・深田遺跡・但馬国分寺跡、出石町の袴狭遺跡など、国府・国分寺や地方官衙関連など多様な遺跡の特色ある木簡がまとまって出土している兵庫県但馬地域において、開催したものである。

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所・日高町教育委員会・出石町教育委員会をはじめ、木簡出土遺跡の所在する地域の教育委員会・広域事務組合の方々、及び木簡学会委員からなる実行委員会・運営委員会が準備・運営にあたり、また関係各自治体、学会、マスコミ関係のご後援をいただいた（詳細は本号二五四頁参照）。

研究集会は七月五・六日の二日間にわたり、五日は現地見学、六日は日高町文化体育館で木簡の実見及び研究集会を行なった。ここにその研究集会における各報告に基づく論考・要旨と、討論のまとめを掲載する。なお、当日の報告内容と報告者は次の通りである。

日高町の古代遺跡と出土木簡

加賀見省一氏

出石町の古代遺跡と木簡

小寺 誠氏

袴狭遺跡出土木簡と但馬国豊岡盆地の条里

山本 崇氏

九世紀の国郡支配と但馬国木簡

吉川 真司氏

文書と題籤軸

杉本 一樹氏